



ゆらがわ

舞鶴市立由良川小学校

学校だより 7月号

〒624-0955 舞鶴市字丸田74番地

TEL : 0773-82-0013

令和3年6月30日発行

いよいよ7月が始まり、「夏本番」を迎えます。また、学校は1学期のまとめの時期となります。まだまだ新型コロナウイルスの感染対策や熱中症対策をとりながら、学校に来る日が例年よりも少し短くなりますが、この7月を子どもたちに元気に過ごしてもらいたいと思います。地元の神崎浜海水浴場もコロナの関係で閉鎖となり、昨年同様に少し寂しい夏となります。



何かを始めるのに遅すぎることはない！！

コロナ禍の中いろんな制限がありますが、逆に何かを始めるよい機会かもしれません。何かにチャレンジすることは、人生においてとても大切なことです。それを表している偉人の言葉やエピソードを紹介します。

一人目は、永 六輔さんです。ラジオパーソナリティ、タレントで元劇作家でもあり、『上を向いて歩こう』の作詞家としても有名な方です。

○「人間、今が一番若いんだよ。明日より今日の方が若いんだから。いつだって、その人にとって今が一番若いんだよ。」
・・・今を大切にせずに明日や来週、はたまた来年のことを考えてたら意味ないですよ。生き急がず、今を大切にやる。やりたいことがあるなら今やる。そんな気持ちにさせてくれます。

○「人の死は一度だけではありません。最初の死は、医学的に死亡診断書を書かれた時。でも、死者を覚えている人がいる限りその人の心の中で生き続けている。最後の死は死者を覚えている人が誰もいなくなった時。そう僕は思っています。」

・・・人の心に残り続けることって素敵ですね。私も歳を重ね、好きだった歌手が逝去するニュースを耳にするようになりましたが、音楽を聴くと今でも心に響いてきます。そう考えるとクラシックの作曲家たちは、楽譜と演奏会だけで、現代も多くの演奏家によって、その曲が受け継がれているのは本当にすごいことです。

二人目は日野原 重明さんです。医師としてさらにはベストセラー作家として105歳まで現役だった方です。

○「2年先までスケジュール帳に空白がない」

○「マルティン・ブーバーという著名な哲学者は、『人は始めることさえ忘れなければ、いつまでも若くある』という言葉を残しました。新しいことへの挑戦を続ければ、体は老い衰えても、心の若さはいつまでも続く。私なりに『創(はじ)める』という字を当てて座右の銘にしています。」

・・・日野原さんは100歳のときに10年日記を買って日記をつけていたそうです。始めるということのを忘れなければいつまでも若くある。これはブーバーという哲学者の言葉ですが、響く名言です。

三人目は、日本で最初に日本地図を描いた伊能 忠敬さんです。名主、商人として成功しましたが、50歳になって天文学を学び始めます。しかも、19歳も年下の人を師匠として学び始めたそうです。年上とか年下とか関係なく教を乞う姿勢がすごいです。

そして55歳になって徒歩で日本地図を作る旅に出ます。その歳月はなんと17年、歩いた距離は地球1周分(4万Km)というから驚くばかりです。当時は寿命も異なるので、江戸時代の50歳と現代の50歳とでは感覚的にも肉体的にも大きく違います。だから余計にこのチャレンジの凄さを感じます。

小学生である子どもたちには、年齢のことはまだ関係ありません。でも何かやりたいことを見つける、何かをチャレンジしてみるといった経験はとても大切になります。これからいろいろなことに興味を持ち、必死になってチャレンジする姿を見守り、応援していきたいです。

校長 中江 浩二 教職員一同